第 12 回会員便り

ハノイに暮らして

種村　泰子（甲府地区）

シン　チャオ（こんにちは）！　私は２００７年から２年間ベトナムのハノイに住んでいました。

ベトナムに行った当初は、英語で何とかやっていけると思っていたのですが、それは観光地やホテル、レストランでのことです。暮らしていれば、地元で、美味しい食堂（コムビンザン）や市場にも行ってみたくなります。そういった地元ならではの場所では英語が通じないことがとても大変でした。

ホム市場では、大量の布が手ごろな値段で売られています。それを日本人お勧めの、英語が通じるお店で仕立ててもらいます。１０００円前後でブラウスやワンピースがうまくできると嬉しくなります。調子に乗って、英語の通じないベトナム人の店で、オーダーすると、ベストスーツを作ってもらうはずが、説明が悪くて、半そでの上着とミニスカートが出来上がり、まさに目が点になったこともあります。やはり、ベトナムの普通の暮らしを味わうには、多少のベトナム語が必要です。

まず覚えた言葉は、「バオ　ニュウ　ティエン（いくらですか)」。それから、金額を知るための数字、タクシーに乗ったときのために「ディー　タン（まっすぐ)」「ゼー　ファイ（右に曲がって)」「ゼー　チャーイ（左に曲がって)」などです。

ベトナムには、フォー（うどん)、チェー（みつまめのようなデザート)、バインミー（サンドウィッチ）など安くて美味しいものがいろいろあります。観光客なら行かないような街中にある、座るところがお風呂いすの様な店にも、慣れてくると出かけて行くようになりました。

タクシー代は安いのですが、乗っていいタクシーと悪いタクシーがあります。メータータクシーといっても、やたら金額のあがり方が早いタクシーがあるので、私たちは、ハノイタクシーやマイリンタクシーなどを選んで乗っていました。

ベトナムは、ベトナム戦争の後で生まれた３０代の若者が支える、元気でお年寄りに優しい町ですが、その一方で、市場などで人を見て値段を決めるよう

な、油断できない、ちょっとエネルギーの要る所でもあります。
　朝の５時には、散歩をして、時々立ち止まっては、オリジナルな体操をしているお年寄り達、一角で、カセットデッキの音楽に集まってきた女の人たちが突然始めるエアロビクス、毎日夕方の４時には、道端の店のお風呂椅子に座ってビールを飲んでいるおじさんたち、センスのいい雑貨店のすぐそばで、ノンラーというかさをかぶって天秤棒を担いで花や果物を売る人たち、薄型のテレビを乗せているバイク、仰向けの豚を何頭もぷるんぷるんさせて走るバイク、活気があって、雑多な町。離れてみるとどれも懐かしく思い出されます。

　ハノイに住んでいたとき、嬉しかったことがあります。それは、習い覚えたあやふやなベトナム語を話すと、ベトナム人が喜んで発音指導をしてくれたり親切にしてくれたことです。看板の文字が分かったりするとさらに嬉しかったものです。今は、そのときの気持ちを大切にしながら、日本に来て言語に不自由をしている外国人が、日本とうまく付き合っていけるお手伝いができるよう心がけていきたいと思っています。もし、ボランティアで学んだ日本語で誰かが同じようにうれしい思いをしてくれることがあったら…と思い、指導に励んでいます。